

平成27年度 第4回大和市環境審議会 議事録

I. 開催日時 平成27年8月24日(月) 午後2時30分～午後4時30分

II. 開催場所 環境管理センター 会議室

III. 出席状況 委員10人

高橋政勝委員(職務代理)、飯島英世委員、内山和子委員、
江守哲也委員、小川典子委員、河西正彦委員、坂本哲也委員、
白鳥節郎委員、高橋亨委員、細田徹委員

事務局(所管課含む): 環境農政部長ほか10人

IV. 公開・非公開の状況

公開 非公開 一部非公開

V. 審議又は検討の経過及び結果

A. 会議次第

1 挨拶

2 議 題

(1) 一般廃棄物処理基本計画改定に関する検討経過報告

3 その他

B. 資 料

- ・ 一般廃棄物処理基本計画改定に関する検討経過報告(資料1)
- ・ 数値目標について(資料2)

(※資料等は複数ページに渡るため掲載しておりませんが、市役所環境総務課で閲覧できますので、事前に連絡のうえお越してください。

C. 審議内容など

- ・ 環境管理センター工場棟の施設見学終了後

「一般廃棄物処理基本計画改定に関する検討経過」の報告を事務局より行い、意見を頂いた。

(1) 一般廃棄物処理基本計画改定に関する検討経過報告

委員：資料2の1について、ごみの排出量を国、県、大和市で比較しているが、ごみを有料化している自治体同士での比較はしていないのか。

事務局：神奈川県内では現在、本市以外に2市がごみを有料化している。有料化している自治体のごみの排出量傾向は、有料化する年度の前後で大きく排出量が減り、それ以降は横ばいという本市と似た傾向を示している。

委員：有料化している自治体と大和市を比較してみなければ、大和市のごみの排出量が少ないとは言えない。同条件で数値比較を提示する必要がある。
有料化した所と比べて大和市はごみの排出量が多いのか、努力が足りないのか、ということが重要である。そうしなければ次の施策が出揃わない。
また、資料2の1ページにある現行計画の目標設定と実績について、推計値と書いている。推計値というのはある計算式で出したものをいうが、これはどうやって出した数値なのか。図の1と図の2で数値が同じものがある。

事務局：資料2の1ページ、図2について、実線は実績値なので図1と同じ数値となる。点線が推計値であり、現行計画の目標値である。平成19年度までの実績値を基準として、毎年1%の減量化が、現行の一般廃棄物処理基本計画の数値目標である。

委員：推計値というのはある計算をもとに求められた数値であり、この場合は予測値、もしくは期待値としなければいけないのではないのか。

事務局：どのように表現したら適切なのかということはあるが、この数値は先ほど説明した通り、平成19年度までの実績値からマイナス1%を設定した数値である。本市の市民1人当たりの1日のごみの排出量を、毎年1%減量をしていくという現行計画の数値目標であるが実績値が下がっておらず、目標値と実績値に乖離が生じており、今回検討したい事項となっている。

委員：マイナス1%のために発生抑制や分別徹底の啓発活動をするとはあるが、他に具体策はあるのか。

事務局：現行計画では、発生抑制や分別徹底の啓発活動をずるとしている。

委員：現行の計画は何故、実行できなかったのか。それを考えなければまた同じように、計画があっても実行できないということになってしまう。それをなくすためには、具体策をいかに実行して、こういう結果になったというレビューが必要になるだろう。

この資料では、そういった具体策である発生抑制や分別の徹底活動について、毎年どのような事を行っているのか、その効果検証をどのようにしたのか、記載されていないので、確認した。

委員：資料2の2ページ、高齢化率とごみ排出量の関係性について伺うが、これはごみ全般ではなく、戸別回収している可燃ごみについての調査なのか。

事務局：そうである。戸別回収している家庭の可燃ごみについての調査である。

委員：高齢化率が高くなることでは、ごみは増えないと思う。紙おむつなどを使うようになってそれがごみになること以外は、むしろごみの排出量は減るのではないか。外出が減ることで、外から家に持ち込む物も減る。自炊をしなければ、調理ごみや生ごみが出ずに、ごみは減るだろう。なぜ高齢化が進むとごみの排出量が増えると考えなのか。新聞も高齢になるとやめてしまうと思う。買い物にも出かけなくなるので、段ボールなども減る。

ごみの排出量に、一番に影響すると思われるのは生活レベルだろう。地区ごとに収めている税金の金額を調べたら、納付額が多い所がごみの排出量も多いと思う。高齢化率が高くなるとごみの排出量が多くなるというのはあてはまらないのではないか。

事務局：近年の社会状況を鑑みて、一般的に高齢化率が高くなると、日中家に居る人が増加することや、自炊せずに食事を購入すること等で家庭ごみが増え、ごみの排出量は増えると考えている。

委員：アンケートをとった結果なのか。

事務局：「高齢化率とごみ排出量の関係性」の項目で記載されているごみの排出量の調査結果は、実際にごみを回収して頂いた実績値であり、どう考えるかというより、こういう事実があったと捉えていただきたい。

委員：これは高齢化率が高くなったことのみが原因なのか。他にはないのか。たとえば年齢構成や、税金の納め具合などである。

事務局：ここに述べているのは、高齢化に着目して出した数字とご理解いただきたい。

委員：この数値はたまたま高齢化に繋がっているだけで、他の要素を考えていない。高齢者がどれだけごみを出しているか把握しているわけではない。同じ地域で毎年調査して高齢化とごみの排出量が比例して上昇しているのであれば、高齢化でごみの排出量は増加するといえるかもしれない。こんな一部の数値では高齢化以外の原因が圧倒的に多いだろう。これは施策の効果の説明のなかで、排出量は減少していないが、それは高齢化率が高くなったためであり、実質的には排出量は減少している、施策効果は上がっている、と言うために作られた数値である。もっと誰にでも評価できる数値を持ってきていただきたい。

委員：実際に資料にある比較地域は、高齢化率が高い地域と低い地域である。高齢化率が高いからごみがたくさんでるだろうという予測ではなく、現状を記載している。

委員：高齢化率が25%以上の高い地域でも、残りの75%がどうごみをだしているかが重要で、ごみの排出量が増えている原因は高齢者という風につなげることは問題である。

委員：これから大和市の高齢化率は高くなるだろう。これは基本計画を改定するための検討資料であり、高齢化に着目した資料になっていると理解している。

委員：本当に高齢化がごみの排出量が増える原因なのか。計画を改定するのだから、ごみを減らせない理由を根本的に掘り下げるべきである。

事務局：本日お渡ししている資料は調査の結果である実際の数値を記載したのであり、計画改定時にはこれらを踏まえて、目標等を検討したいと考えている。

委員：過去のデータなどの実績だけを見ていても仕方がない。そのデータからある方向性を見出して、それに基づいて計画改定や目標設定をしなければならない。気になる点としては目標設定の方向性で、使用済み小型家電、容器包装プラの減量化について、市で何かできるのか。

委員：容器包装プラは、容器を洗ってきれいしてくださいと自治会では言っている。

委員：それは実際に今やっていることなので、具体的にどういったことをこれからやるのかなどを書いていただいたら良いのではと思う。

委員：高齢化率とごみ排出量の関係性については、「一般的に高齢化率が高くなるとごみの排出量が増加すると言われており」とあるが出典はどこなのか。ただ、実際に調査したとあり、これは一例なので、むしろ目標設定の方向性に記載されていることを具体的に見て話を進めて行くべきではないか。

委員：目標を決めたら実行できるよう、きっちりとした具体策を提示していかなければならない。また計画を改定したら目標達成の具体策はどうするのか、毎年レビューしていかなければならない。そうしなければ今回の結果のように何年も横ばいというような結果になってしまう。

委員：一般廃棄物処理基本計画改定のスケジュールについて質問したい。答申は平成28年2月の予定としているが、新しい計画のスタートは平成28年度ということが良いか。

事務局：平成28年4月から、10年間の計画としている。

委員：資料に示されている計画改定の主な理由の内、③と④については、処理施設の建設や処分場の関係などのハード面に係るため重要視されるだろう。新施設の稼働や既存施設の有効利用などについて具体的に検討項目を示していかなければ市民の理解を得られないのではないか。最終処分場の用地確保についても、検討事項に書かれているが。

事務局：環境管理センターの施設の延命・更新については検討中であり、数字など具体的に示せるものはない。最終処分場についても、焼却灰の全量資源化を目指しているが、どのように記載するかは検討中である。

委員：既存の施設については、延命した方が得策なのかどうか確認していただきたい。施設が古くなってくると、保守修理の金額も高くなる。新設した場合と延命した場合で、経済性の比較検討を提示していただきたい。

事務局：更新及び保守費用については、現在調査中である。具体的な保守費用の計算、新設する際の建設概算など、今後提示させていただきたい。
本日は途中経過の報告なので、11月に開催を予定している審議会では、委員からの意見などを参考にして改定案を整理していく。

委員：ごみの排出は様々な要素がからむが、高齢化に着目して資料を作成したことは評価できるし、分析表、統計表もよくやっていると思う。

資料2の4ページ以降に分別回収に関する図があるが、新聞紙のリサイクル減少傾向について経済指数と絡めて考えたことはあるか。

事務局：今回の分析は資料の通りで、経済との関連についてまでの分析はしていない。

委員：事業担当課は勉強会をしたり、色々なデータを調べたりしており、高齢化によりごみの排出量が増える件についても、何かバロメーターや研究者の意見やコンサルタントなどの出典があると思う。その中でどうやってごみを減らしていくのか、削減率は1%でいいのか追求していかなければならない。そのために経済的な指標はあるのかとお聞きした。私たちもこれから勉強していかなければと思う。

委員：新聞の回収量低下については高齢化につながっていると思う。リサイクルステーションまで、なかなか新聞紙の束を持っていけない。市として可燃ごみなどと同じように戸別回収すればリサイクル率は上がるだろう。

委員：色々な意見がでるのは当然なので、それらは今後の検討課題としていけばいいと思う。

委員：ごみについては、排出量だけではなく質について考えることも必要だと思う。

委員：本日は中間検討報告ということで、資料にある検討方針で良いと思う。今、他の委員からの意見にもあったが、排出量とリサイクル率は哲学が違う。同じ方向性では考えるべきことではないので、検討する必要がある。

事務局：ごみの排出量とリサイクル率について、新聞紙は販売店が戸別回収をしてリサイクルしているので、その分までを行政がお金を使い戸別回収をすることで、回収率をあげるという考えはない。

・その他

次回の環境審議会の開催予定について説明を行った。

<閉会>